

みどりネットワーク



△「みどりと水のまちづくり」を目指す今泉



今泉

みどりと泉に恵まれた 人間性豊かなまち

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。7月は伝法、8月は富士見台地区です。連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課 ☎51-0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。

今泉地区は富士山のふもとの南端に位置し、沖田遺跡を代表とする弥生時代の遺跡など、早くから人々の安住の地として栄えました。また、「源太坂」「平家越」など、源平時代の史跡がその名を今に残している地区です。

この地区は昔から富士山の伏流水が湧出し、明治十二年富士地区最初の手すき和紙工場がつくられ、紙・パルプ産業の礎となりました。丘陵地帯は住宅化が特に著しく、平坦な地は水田地帯でしたが、現在、工場適地として自動車工場等の大手工場が並んでいます。

この地区の課題は、地盤の低い地域の浸水対策、工場・住宅・商店の住工分離対策、狭隘な道路対策があげられます。

今泉地区は産業のまち富士市の中心的な位置にあり、工業とともに発展してきました。今後は生活環境の保全に配慮し、緑の中にきれいな水が流れる「みどりと水のまちづくり」を目指し、人間性豊かな地区としていく必要があります。



△前列左から富恵、光義さん、後列左から本行さん、雅蔵さん、愛犬ロッキー、歩さん、逸子さん

本行さんの妻逸子さん（四十一歳）は、華道一筋二十二年。「生け花は御飯より好き」と言うほどで、今は華道教授です。

富士高二年の雅蔵君はハローモニカの名手。小学生のときから習っており、タンゴやシャンソンもハローモニカでお手の物。

また、吉原二中二年の歩さんも幼稚園からピアノを続けています。

芦沢さん一家のルールは「互いに個性を尊重すること」（本行さん）。そんな思いやりが、文化活動を実のあるものになっているように思えました。



文化活動一家

上和田 芦沢さん一家

豊かな趣味は豊かな人生を生み出します。一家でそれぞれ文化的な趣味を持つ、なごやかな家族が芦沢さん一家。今回は、夕食前の芦沢さん一家におじゃましました。

芦沢さんのお宅へおじゃますると、まず目につくのが、よく手入れされた庭。四季の花が植えられ、住んでいる人のやさしさが伝わってきます。園芸担当は世帯主の光義さん（六十九歳）と息子の本行さん（四十五歳）です。

玄関には光義さんのかいた立派な油絵。光義さんは昭和五十四年に田子浦小学校の校長を退職してから絵を独学で始め、現在は県展で入選するほどの実力です。ほかにも書道が師範級、詩もたしなむという多才の持ち主です。

妻の富恵さん（六十五歳）は手先が器用で、和裁・洋裁なんでもこい。最近は大正琴に挑戦しています。





県下で初めて結成されたゴールド防犯交通教育隊の隊長

みずのしんいちろう
水野信一郎さん
岩松・林町 (79歳)



最近ふえているのが、お年寄りを狙いにした悪徳商法。壺や印鑑、健康食品などを不当な値段で売りつけるという商法が目立っています。こうした被害を未然に防ぎ、加えて高齢者の交通安全も啓蒙するのが、ゴールド防犯交通教育隊

です。シルバーの上を行くという意味でゴールドという名を付けた県下で初めての組織です。隊員は市老人クラブ連合会の各支部から選出された四十七人。当面は、警察官や交通指導員の話や聞き取り、映画などで勉強します。水野さんはこの初代隊長で、市老連の今年度の会長です。耳も目も至って丈夫で、折り目の正しさは年齢を感じさせません。「近ごろは商売の手口が巧妙で、年寄りにはだまされやすい。一人暮らしは特に危険なので、これを機会に学習し、年寄りの間の連絡を密にしたい」と抱負を語ります。モットーは「人を愛し、人に愛される」。暇なときは花づくりに精を出すというロマン派。

まちか

我がまちを語る



荒川一郎さん
水の上(69歳)

歴史と活力を備えた街
今泉は豊かな湧き水に恵まれ、古くから発展してきた地区です。今の中央図書館西側に通称ガマと呼んだ水の自噴地があり、そこから流れ出た水は、水車をいくつ

も回すほどでした。ここを流れる田宿川の深さは二メートルぐらいあったように思います。この湧水が今泉を製紙工場発祥の地として、「紙の都富士」のもとをつくりました。また、今泉には善徳寺や平家越源太坂など有名な史跡がたくさんあります。これらは、この地区が昔から重要な場所であった証拠と言えます。このように歴史と活力を兼ね備えた今泉の原動力は、今泉魂と呼ばれるガッツと人々のまとまりのよさでした。将来に向けて今泉に住む私たちは、水の恩恵を再認識したまちづくりをする必要があると思います。



布の絵本のボランティア



ひょうたんじんの名人
大石芳彦さん(71歳)

大石さんちの玄関に入ると、漫画やえとをかいたひょうたんがぎっしり。その数は三百を超えるといわれています。初めてひょうたんを植えたのは昭和五十一年ごろ。大きいひょうたんがたくさんなったことから、置き物づくりに凝りだしました。今では、毎年百五十個余りをつくる名人です。

学習・ボランティアグループ「ポテトの会」は、布を素材とした絵本・すごろくなどをつくり、幼稚園や福祉施設に借し出しています。メンバーは今泉地区のはりきりママさん十二人。月二・三回、今泉公民館を拠点として活動しています。代表の牧野倫子さん(上和田)は「無理せず、自ら楽しむ活動を心がけています」と一言。



横断歩道の指導を十年
滝口正一さん(泉町)

「おじいさん、おはよう！」きょうも、子供たちの元気なあいさつを受けての横断指導。滝口正一さん(七十六歳)は、横断指導の奉仕活動を始めて十年目。たまに旅行などで休むと「きのうはどうしたの？」と気遣いの声も。「嫌なことがあっても、旗振りをやれば気分はさわやか」と何よりの楽しみにしています。

あの人の人ごんなこと

